

’ 98秋冬～’ 99春夏 メイクトレンドおよびカラー意識

全 体



アイメイク



口 紅



ネイルメイク



メイクトレンド	カラートレンド
<p>◇高校生は、基本の基本に回帰した“ていねいメイク”を心がける傾向にある。メイク熟練度の程度差こそあれ、セオリーに基づき自分の顔づくりをする。肌の露出にともない、ラメにブレイクしそうな気配があるものの、関心即消費には結びつかない</p> <p>◇大学生は商品に対してもメイクに対しても慣れてきており、自分にとって必要か否かをハッキリ見極める。その中で「我が道をゆく」「トレンドは先取り」のオピニオン層から「品質重視」「トレンドはチープなもので一応おさえておく」のフォロワー層まで、それぞれの中でメイクニーズが異なり画一的な傾向が読みにくくなった</p>	<p>◇秋冬は色物に控え目の質感メイクを楽しんだ。その反動か、春夏は明るいトーン×落ち着いた色調でありながらも青派、紫派、緑派とハッキリ主張のある色選びをする傾向。</p> <p>◇色味にもまして、夏にふさわしい質感を追求し、時にはラメもワンポイント登用</p> <p>◇メイクポイントは「唇（グロス使い）から目元へ」と変化している</p>
<p>◇アイメイクには凝るが、マスカラへの注目度はこれから…というところ。アイテム的にはアイライナーやマルチパーパスへの関心が高まる</p>	<p>◇ほどほどに明るく、ほどほどにおちついた「主張のあるほどほどカラー」に注目が集まっている</p> <p>◇涼しい目元への憧れもあり、青紫などのクールカラーや緑、黄系のブライトカラーを志向する傾向あり</p>
<p>◇秋冬は引き続きグロスに注目が集まったが、冬の乾燥防止の役割もあってか、春夏には押え程度、グロスにリップ効果を求める声もあるほど</p>	<p>◇リップカラーに対する関心が今ひとつ。ラメ入り口紅も唇が美しく見えないと評価されない難しさがある</p>
<p>※インパクトのあるNEWが望まれる分野</p>	
<p>◇いくつでも欲しいネイルは、価格や容量も重要。小型で安価かつ乾きの早いもの、発色がきれいなもの…と要望は尽きない</p>	<p>◇秋冬は、唇に合わせてベージュ系、ソフトピンクが人気だったが、手軽にできるネイルアートへの関心も引きつづきある。一方クリアネイル&amp;アートの仕掛けには、一部の柱にしか響かない</p> <p>◇所有カラーも一順、ラメや未所有カラーの補完を服や水着に合わせて行うものと思われる</p>